



2度目の神宮大会で活躍を誓う光星ナイン

# 明治神宮野球あす開幕

# 光星高、上位進出に期待

第42回明治神宮野球大会は23日、明治神宮野球場で開幕する。高校の部には、東北王者の光星が3年ぶりに出場。今夏の甲子園準優勝主力メンバーが残っており、上位進出に期待がかかる。24日の準々決勝(8・30)に登場し、九州地区代表の神村学園(鹿児島、初出場)と対戦する。

## 準々決勝に 神村学園と対戦

光星は10月の秋季東北地区大会で、準々決勝までの2試合をコールドで勝ち上がった。準決勝では花巻東(岩手)を相手に、最大5点のビハインドをね返して勝利。決勝では、主戦金沢湧紀の好投で聖光学院

（福島）を下し、2度目の神宮出場権を手にした。今秋の県大会、東北大会計8試合では、田村龍弘主将が3本塁打、打率6割6厘をマークするなど、打線は、2005年センバツの準優勝校で、今夏の甲子園にも出場した。秋の九州地

区大会では、準々決勝で大分に競り勝ち、準決勝は別府青山(大分)に快勝。決勝は九州学院(熊本)を

翌14と機動力も發揮した。投手陣は、145km/h超の速球が武器の金沢、安定感と制球力が自慢の城間竜兵の右腕2人に加え、左投手投げの伊藤裕貴らが控えている。

初戦の相手の神村学園は、2005年センバツの準優勝校で、今夏の甲子園にも出場した。秋の九州地

初回に攻めて8-1で大勝し、勢いに乗っている。光星ナインは18日にバスで八戸市を出発。仙台で仙台育英などと練習試合を行い、実戦感覚を取り戻した。21日は人工芝対策として仙台市民球場で調整し、関東入りした。田村主将は「相手は地区優勝校ばかりで、どこも強い。百パーセントの力で、意地でも1勝してきたい」と意気込んでいる。

大会は高校、大学の部に分かれて行われる。高校の部には、各地区の優勝校10校が出場。優勝校が所属する地区には、来春のセンバツでの「神宮大会枠」が与えられる。

大会に先立ち、22日午後3時から、明治神宮社務所で開会式が行われ、光星の田村主将が、大学の部の東北福祉大(東北三連盟代表)の主将とともに選手宣誓する。